

共立女大 八幡 香菜子 ○酒井 哲也 放送大 酒井 豊子

【目的】 衣服材料の選択は、衣服の形態的效果を演出する上で重要な役割を持つ。しかし、材料特性によって生じる形態上の変化が、視覚的印象にどの程度の影響をもたらすかについては、あまり検討されていない。本研究では、製品形態の視覚的效果を考慮した材料設計法の確立を目的とし、市販の異なる布から作製されたフレースカートを対象とし、若い女性がそれらの形態的印象に基づきどのように認別、分類するかを調査分析した。

【方法】 前回家政学会においては、同一原型を用い20種の布で作ったフレースカートのカラー写真を使い総合的な視覚で捉えたそれぞれの形態イメージを基礎にした分類に関する報告を行った。今回は、まず、カラー写真からスカートのシルエットを用い、一対比較によって、任意のスカートシルエット間の遠近感をアンケート調査した。さらに、子の結果を基礎に抽出した斜文織よりなる8種のスカートシルエットを使って、シルエット間の遠近感、シルエットのSDイメージなどをアンケート調査し、検討した。

【結果】 20種のスカートシルエットに関する遠近感調査から一対比較全体の遠近感評点の平均値と、ある特定のスカートシルエットが他との比較において与える遠近感評点の平均値を求め、比較した結果、斜文織よりなるグループと平織よりなるグループに大別された。斜文織よりなるスカートシルエット8種について改めて一対比較による遠近感調査を行った結果は、20種についての結果と良好な一致を示し、この種の判断は、平均的にはかなり安定していることを確認した。